

# デイリー・ジーザス・ニュース #223

## イエスのエルサレムへの最後の旅

奇跡その31：イエスはたった一言で遠く離れた10人の男性を癒す

ルカ17.11-19

11 さて、イエスはエルサレムに向かう途中、サマリアとガリラヤの境界に沿って旅をしていました。

12 イエスがある村に入って行くと、らい病にかかっていた十人の人が 彼らは彼に会った。彼らは少し離れて立っていた ( 13 ) そして大声で叫びました。「イエス様、先生、私たちをあわれんでください！」

14 彼は見たから 彼らは、と彼は言った。 *「私はあなた方に命じます、行って祭司たちに姿を見せなさい。」*

そして、彼らが歩いて行くうちに、彼らは清められた。

15 彼らのうちの一人は、自分が癒されたのを見て、振り返って戻って来た。そして大声で神をほめたたえた。16 彼はイエスに感謝を述べ続けながら、イエスの足元にひれ伏した。彼はサマリア人だった。

17 イエスは彼に尋ねた。 *「十人皆清められたではないか。残りの九人はどこにいるのか。18 この外国人のほかに、神に栄光をささげるために帰ってきた者はいないのか。」*

19 すると彼は言いました。 *「私はあなたに命じます、立ち上がってあなたの道を進みなさい。あなたの信仰があなたを永久に癒したのです。」*

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルカ = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、*赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。* 旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

### コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤとサマリアの境界
タイムライン	3月 ( 38月 )
イエスの生涯の文脈	第7段階：ペレアにおけるイエスの宣教
	C. イエスのエルサレムへの最後の旅
タイトル	1. 奇跡その31：イエスはたった一言で遠く離れた10人の男性を癒す

コメント：

## デイリー・ジーザス・ニュース #223

ルカによる、3月いっぱいかけて行われたイエスのエルサレムへの最後の旅の物語は、もう一つの壮大な奇跡から始まります。それは、イエスがガリラヤでの宣教活動で最初に行われた奇跡（ヨハネ4:46-54）と多くの点で似ています。

どちらの場合も、イエスはただ一言で遠く離れた人を癒やしました。奇跡が起こるには、まず信仰の賜物である従順さが示されなければなりません。この二つの出来事の違いは、2年半前にガリラヤでイエスが一人の若者を癒したことです。今日の朗読では、イエスは同時に10人の男性、つまりらい病（あるいは他の致命的な皮膚病）を癒しました。

過去のDJN朗読で見てきたように、らい病は特別な病気でした。なぜなら、儀式律法の下では人を儀式的に「汚れた」状態に陥らせ、それゆえに「清い」人々との交わりを阻むものだったからです。そのため、十人の男たちはイエスから少し離れたところに立って、イエスに憐れみをかけ、癒して下さるよう、切実な声で叫びました。孤立は、らい病の恐ろしい感情的・心理的側面でした。

イエスは即座に応答し、男たちに祭司たちのところへ行って自分たちの体を見せるように命じました。この命令は同時に、彼らにとっての治癒の約束でもありました。らい病を癒す儀式には、祭司がその人が律法の下で「清い」状態にあることを正式に宣言することが含まれました。また、特別な犠牲も定められていました。

イエスが最初に人々を癒したわけではないことに注目してください。イエスは彼らに、信仰と従順が共に働くようにという命令を与えました。彼らはハンセン病患者として従順に旅を始めました。祭司たちの前に姿を現すために到着した時には、まるで愚か者のように思われそうでしたが、旅の途中で、彼らは皆、瞬時に癒されました。信仰が従順を可能にし、癒しの約束が成就したのです。

癒しは彼らに決断を迫った。まず何をやるだろうか？

10人のうちの一人、サマリア生まれの男が、まずイエスのもとに戻り、感謝の気持ちを表して神に栄光を帰すべきだと決意しました。彼がそうしたとき、イエスの返答は、他の9人にも同じことを期待していたことを明確に示していました。神に栄光を帰すことは、彼らが最低限行うべきことだったのです。

ルカによる福音書では、この箇所の直前にイエスが、神との関係において100%の従順は最低限の条件であると教えていることを思い出してください（ルカ17:5-10）。まず時間をかけて神を礼拝し、感謝の気持ちをもって神を賛美することは、彼らが最低限行うべきことだったのです。

イエスと治癒したらい病人との礼拝の場面は、2つのすばらしい真理を示しています。

一つ目は、イエスをご自身を完全に神とみなしていたことのもう一つの証拠です。聖書には、この男が「**神に栄光を帰した**」（17:15, 18）と二度記されています。二度目の言及はイエスご自身の口から発せられました。男はどのように「**神に栄光を帰した**」のでしょうか。イエスの足元にひれ伏し、感謝と賛美を捧げたのです。言い換えれば、癒された男が癒し手として栄光と誉れを帰した神は、イエスなのです。

イエスは栄光を神として受け入れ、癒されなかった他の人々にも同じように受け入れるよう明らかに期待しました。イエスが、神のみに属する栄光にふさわしいと自ら考えていたことは疑いようがありません。

## デイリー・ジーザス・ニュース #223

二つ目の真理はより微妙なものですが、同様に強力です。ハンセン病は、会堂、そしてさらに重要な神殿への立ち入りを禁じていたため、人々を人々との交わり、そして神との交わりから隔てていました。注目すべきは、彼らが遠くからイエスに癒しを求めなければならなかったことです。癒されて「清い」状態になった彼らは、もはや神から隔てられていませんでした。癒された男はまっすぐイエスの御前に進み出て、イエスの足元にひれ伏し、きっとイエスの顔に抱きついたことでしょう。

この男は、神の御子を通して神の御前に出られる特権を利用した唯一の人でした。

応用：

イエスを「救い主」と信じる私たちは、ハンセン病よりもはるかに恐ろしい病気から「癒」されました。イエスは、私たちが永遠に神の御前から追放する罪から解放してくださいました。今、私たちは神殿だけでなく、「至聖所」、つまり宇宙で最も親密な神との交わりの場にも自由に入ることができるのです。この機会をほとんど利用しない人はどれほどいるのでしょうか。

あなたは毎日どれくらい神のもとへ行き、「ありがとう」を言い、神の御前に留まりますか？神は、あなたを神との最も親密な交わりへと導くためだけに、肉体、魂、霊魂の言い表せないほどの苦しみの中で血を流されました。

あなたは、神と二人きりで過ごす時間を通して、神の臨在を最大限に活かしている10人のうちの一人ですか？毎日、神に感謝し、神を讃える時間を第一に取る人ですか？

どうすれば、神の存在へのアクセスを開いてくれたイエスをもっと定期的に尊敬できるのでしょうか。